

直流饋電システムにおけるエネルギー蓄積装置の蓄積容量と充放電制御 ～エネルギー蓄積装置を分散設置した場合～

Storage Capacity and Charge/Discharge Characteristics of Energy Storage Systems for DC Railways Power Feeding Networks

～Using Distributed Storage Units～

飯尾 晋一郎 (電気システム工学科)

Shinichiro IIO

交通・電力・環境システム研究室

指導教員 高木 亮 准教授

1. はじめに

近年、直流電気鉄道においては、列車密度が低くなる閑散時には回生絞込みや回生失効、列車密度が高くなるラッシュ時には電圧降下が顕著に発生する路線が多数みられる。過去の研究⁽¹⁾では、直流饋電システムにエネルギー蓄積装置（以下、ESSと称する）を導入し、電圧が高いときには電力を吸収し、電圧が低いときには電力を放出して電圧変動を抑制し、これらの問題を解決しているが、ESSの蓄積容量が過大であった。本研究では、蓄積容量の算定方法を再考し、ESSの蓄積容量と充放電制御の関係を検討する。

2. ESS の蓄積容量と充放電制御特性の関係

過去の研究⁽¹⁾では、ESSの蓄積容量算定の際、列車の持つ運動エネルギーと位置エネルギーの総量より求める大雑把な推定方法を用いていたため、誤差が多かったと考えられる。本研究では、I-V特性が最終的に設置されるESSと同一のものを用いて蓄積容量の算定を行うことで、精度の高い推定を行うことができると考えた。

ESSの設置位置とI-V特性パラメータを定めると、以下の手法により蓄積容量を算定することができる。まず、定めたI-V特性をもち、十分大きな蓄積容量のあるESSを、設置位置においてシミュレーションを行い、ESSのSOC（充電度）の時間変化を求め、その変化のpeak-to-peak値から蓄積容量を算定することで、それがESSの容量の限界にあたらず当該I-V特性でESSが運用できる最小の蓄積容量を与える。

I-V特性パラメータはわずかな変更でも結果の大きな変動を招くと考えられる。本研究では、複数の特性を仮定し、各特性における蓄積容量を算定し、結果の比較をした。

3. シミュレーション条件

ESSに与えるI-V特性の概要を図1及び表1に示す。

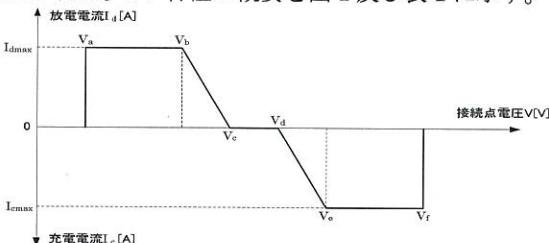


図1 ESSに与えるI-V特性

表1 ESSに与えるI-V特性の電圧及び電流パラメータ

	V _a [V]	V _b [V]	V _c [V]	V _d [V]	V _e [V]	V _f [V]	I _{cmax} [A]	I _{dmax} [A]
特性A	1200	1500	1550	1650	1700	1900	4000	4000
特性B	1200	1400	1450	1550	1600	1900	4000	4000
特性C	1200	1400	1450	1650	1700	1900	4000	4000

シミュレーションに用いる路線の概要を図2に示す。



図2 モデル路線

- 路線長は26.5kmで複線、直流1.5kV電化
- 駅数は24駅で変電所は5ヶ所、上下一括饋電方式
- 全列車各駅停車
- ラッシュ時4分間隔、閑散時10分間隔で運行
- 200[MJ]のESSを各駅に設置する

4. シミュレーション結果

以上の条件でRTSS⁽²⁾を用いてシミュレーションを行い、ESSの蓄積容量を算定した。その結果の一例として、特性Aを与えた場合の閑散時のESSでSOCの時間変化が最も大きかったものを図3に、蓄積容量の算定結果を5[MJ]単位でそろえたものを表2に示す。

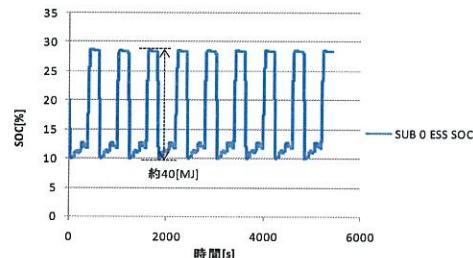


図3 特性Aを与えた場合のSOCの時間変化(閑散時)

表2 ESSの蓄積容量算定結果

	算定容量[MJ]	
	ラッシュ時	閑散時
特性A	40	40
特性B	55	25
特性C	30	55

5. おわりに

本検討により、ESSに異なる充放電制御特性を与えることによって必要とされる蓄積容量が変化することを示した。今後は、浮動充放電を行う特性を与えてシミュレーションを行い、饋電特性評価量を比較して各ESSに適切な特性を見いだす必要がある。

文 献

- 遠藤：「地上設置のエネルギー蓄積装置の導入による直流饋電システムの電圧平準化～エネルギー蓄積装置を分散設置した場合～」、2008年度工学院大学卒業論文(2009)
- 高木：「直流饋電系と列車群制御の統合インテリジェント化」、東京大学学位論文(1995)